

平成30年11月13日

芦屋市議会副議長 福井 美奈子 様

民生文教常任委員会 委員長 福井 利道

民生文教常任委員会行政視察について

みだしのことについて、下記のとおり出張しましたので、報告します。

記

- 1 出張者 芦屋市議会民生文教常任委員会
委員長 福井 利道
副委員長 帰山 和也
委員 長谷 基弘
長野 良三
福井 美奈子
前田 辰一
平野 貞雄

随行 事務局 寺川 貴嗣
浅野 理恵子

計9人
- 2 出張年月日 平成30年10月25日（木）から10月26日（金）
- 3 視察先 ① 沖縄県那覇市 （10月25日）
② 沖縄県浦添市 （10月26日）
- 4 視察目的 「放課後児童クラブについて」 那覇市・浦添市
「放課後子ども教室について」 浦添市
- 5 報告事項 別紙のとおり

平成30年度行政視察報告書

(民生文教常任委員会)

視 察 日 時	平成30年10月25日(木) 14時30分～16時																												
視 察 先	沖縄県那覇市議会																												
視 察 内 容	放課後児童クラブについて																												
視 察 目 的 (視察先選定理由)	他県の同施策と比べ違いのある放課後児童クラブを運営されている沖縄県・那覇市の取り組みを視察し、本市でも新たに取組もうとしている同事業民営化の参考・研究とするため。																												
調 査 概 要	<p>那覇市の放課後児童クラブの事業運営(以下「学童」という。)については全クラブが民間の運営であり、保護者会自身が運営しているクラブも多数ある。この状況は先の大戦以降、米軍統治下における影響で日本国における児童福祉法の適用が遅れた状況があり、その間に学童を必要とする保護者が同事業を運営してきた経緯がある。それが今日まで続いており市としての学童運営の基盤となっている。以下は質問項目に合わせて那覇市学童の概要について報告するものである。</p> <p>①学童入級数と待機児童数</p> <p>学童数86クラブ(116支援の単位)</p> <p>登録児童数(単位：人)</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>1年生</th> <th>2年生</th> <th>3年生</th> <th>4年生</th> <th>5年生</th> <th>6年生</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1,512</td> <td>1,365</td> <td>940</td> <td>482</td> <td>200</td> <td>104</td> <td>4,603</td> </tr> </tbody> </table> <p>待機児童数(単位：人)</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>1年生</th> <th>2年生</th> <th>3年生</th> <th>4年生</th> <th>5年生</th> <th>6年生</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>70</td> <td>14</td> <td>5</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>94</td> </tr> </tbody> </table> <p>②学童運営への市補助の考え方と方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 法令等で定められた事項を満たしたうえで、市に開設届を出した者に対し補助を行っている。 ● 補助の種類 放課後児童健全育成事業・障害児受入推進事業・障害児受入強化推進事業・放課後児童支援員等処遇改善等事業・放課後児童クラブ利用率軽減事業・児童クラブ賃貸料補助金 <p>③学童で働く職員の内訳及び求人方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 全て民間の為、市が直接雇用する支援員等はいない。 ● 1支援の単位で2人の正規職員と1～2人の非正規職員配置している場合が多い。 ● 求人方法は、ハローワークや求人誌等で行っている。 <p>④今後の学童の考え方</p> <p>学童受入児童数が拡大している状況とともに待機児童も発生していることから、今後も受け入れ児童数を拡充する予定である。</p> <p>⑤学校外での学童運営について</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 児童の安心・安全面から考えると、小学校敷地内で運営する事が望ましい。 	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	合計	1,512	1,365	940	482	200	104	4,603	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	合計	70	14	5	0	2	3	94
1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	合計																							
1,512	1,365	940	482	200	104	4,603																							
1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	合計																							
70	14	5	0	2	3	94																							

	<ul style="list-style-type: none"> ● 急増するニーズに小学校敷地内の学童クラブが追い付いていない状況となっており、待機児童解消の観点から、小学校敷地外で運営するのはやむを得ないことだと考えている。 ● 那覇市としては小学校の余裕教室等の活用を進めることで、小学校敷地内での運営を行い、安全・安心面を確保していきたいと考えている。 (敷地内クラブ25 敷地外クラブ61)
<p style="text-align: center;">所 感 (意見・感想・ 今後の課題等)</p>	<p>沖縄として抱える問題からのスタートとなった那覇市学童事業であるが、保護者が運営する事による負担と引き換えに、行政が間に入らない利用する側と現場の直接関係が円滑に構築されている。また、各校区によって保育内容や料金に差がある状況も確認でき、最低限の質も担保しながらの運営を利用者・市が理解し進めている事も感じた。今後、芦屋市においても学童民営化が進められていくが、今視察を参考とした事業展開となるようにしていきたい。</p>

平成30年度行政視察報告書

(民生文教常任委員会)

視 察 日 時	平成30年10月26日(金) 10時 ～ 11時30分
視 察 先	沖縄県浦添市
視 察 内 容	放課後児童クラブについて・放課後こども教室について
視 察 目 的 (視察先選定理由)	先述の那覇市同様全クラブが民営である放課後児童クラブ(以下「学童」という。)の運営及び障害児学童の内容を芦屋市における同事業の参考とするため。また、放課後子ども教室にいち早く取り組み、地域に根付かされている浦添市の取り組みを視察し芦屋キッズスクエア事業の参考とするため。
調 査 概 要	<p>浦添市の学童については指定管理も含め全クラブが民間の運営であり、沖縄県下の特色でもある保護者会自身が運営しているクラブも多数あり、障がいを持つ児童専用の学童も運営している。また放課後子ども教室についても学校内外で活発に取り組みされており、地域の協力も得て認知されている。以下は質問項目に合わせて浦添市学童・放課後子ども教室の概要について報告するものである。</p> <p>学童関係</p> <p>①学童入級数と待機児童数</p> <p>学童数43か所</p> <p>登録児童数25人(平成30年5月1日時点)</p> <p>②学童運営への市補助の考え方と方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 補助金交付要綱に基づき交付(年4回に分けて) ● 補助の種類(厚労省補助・沖縄振興特別推進交付金・市単独事業) <p>③学童で働く職員の内訳及び求人方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 職員数192名(全て民間) ● 常勤職員84名 非常勤職員10名 嘱託員4名 パート・アルバイト94名 ● 有資格者は114名(保育士・高卒児童福祉事業に2年以上従事・教員免許等) ● 求人方法は、ハローワークや求人誌等と合わせて知人の紹介 <p>④今後の学童の考え方</p> <p>国の放課後こども総合プランに基づき、学校敷地内での整備の促進を図る。教室不足もあり、教育委員会との調整を随時行っていくとともに公的施設移行も進めていく。</p> <p>⑤障害児放課後児童健全育成施設ひまわり学童クラブについて</p> <p>障がいを持つ児童専用の学童で、指定管理者制度を導入し現在は浦添市社会福祉協議会が運営している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 定員20名 ● 指定期間3年間 選定方法プロポーザル方式 ● 特別支援学校に通う生徒は専用車両での送迎も行う <p>放課後子ども教室関係</p> <p>①事業経緯・内容・教室について</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 文部科学省の「地域子ども教室推進事業」を平成16～18年度で実施

	<ul style="list-style-type: none"> ● 平成19年より厚生労働省「放課後児童健全育成事業」と連携した「放課後子どもプラン」を実施 ● 様々な体験・交流活動に加え学習支援の充実を目指している ● 平成26年より学童と連携し一体的に実施する事を進めている ● 22教室のうち教室を利用した学校だけでなく11教室が自治会等で実施 <p>②地域のコーディネーターの現状について 各教室をつなぐ地域コーディネーターを2名配置している。時間に余裕のある60代以上の主婦の方をお願いしている。より良い処遇の改善に努め人材確保を目指している。</p> <p>③当事業に対する市の関与や補助について 国・県・市の3分の1ずつ補助金を出し運営している。基本的に現場に任せているが運営に関しての相談はコーディネーター・事業担当者が支援しており必要以上に干渉しないようにしながら進めている。</p>
<p>所 感 (意見・感想・ 今後の課題等)</p>	<p>学童については、経緯は違うものの運営における自由度は担保しながら待機児童を解消しようとする進め方は参考になった。障がいを持つ児童も安心して通える場所があり車での送迎についても特段の問題を感じていない事が分かった。</p> <p>放課後子ども教室についても国の方針とともに早くから先進的な取り組みをされており、地域において潜在的に存在する、昔からの子どもへの対し方を事業として昇華させた点は大変勉強となった。</p>

視 察 先 ①

10月25日
沖縄県那覇市



那覇市役所を訪問しました。



那覇市・こども政策課の職員の方にご説明をいただきました。

視 察 先 ②

10月26日
沖縄県浦添市



浦添市役所を訪問しました。



浦添市・こども政策課、教育総務課の職員の方にご説明をいただきました。